

平成31年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : アビームコンサルティング株式会社、学校法人産業医科大学、国立
立大学法人東北大学東北大学病院、国立研究開発法人防災科学技
術研究所

研究開発課題 : 「IoT/BD/AI 情報通信プラットフォーム」社会実装推進事業
I 最先端の自然言語処理技術を活用した高度自然言語処理プラット
フォームの研究開発

研究開発期間 : 平成 29 ～ 31 年度

代表研究責任者 : 織田 美穂

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)
(評価点 16点／25点中)

(総論)

全体的にバランスの取れた計画であり、実証実験を通じて評価、開発のサイクルを回していることは評価できる。

利用者指向型のシステムを実現するため、利用者がカスタマイズ可能なプラットフォームを提示し、適切な複数のユースケースを示すとともに、開発側とユーザ側を上手く結びつけながら、継続的な更新と事業化の推進を期待する。

(コメント)

- 全体的にバランスの取れた計画である。

- 実問題への実証実験を通じての評価、開発のサイクルを回していることは評価できる。
- 自然言語処理のモジュール自体の高度化は、汎用性の観点からの評価が必要。
- 大規模自然言語プラットフォームの優位性(様々な言語等の感度)と限界(汎用では対応できない部分)を明確にし、今回共同研究している対象の分野の利用者が(継続的に)カスタマイズ可能な高度自然言語プラットフォームが提示できると良い。
- 現在対象となっていない異なる分野に対する自然言語処理プラットフォームの高度化(利用分野ごとの専門化)について、何らかのインターフェースやモデルを提示できると良い。
- 利用者指向型のシステムではなく、全てを指向した全体的なシステムとなっているため、利用者が「使いやすい」と感じ、満足していただける結果が得られるような仕組みにしていくべき。
- 開発側とユーザ側が上手く結びつくように努力してほしい。
- 利活用したくなるユースケースを多く出してほしい。
- 継続的な更新と利用に向けた事業化も前向きに進めてほしい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

具体的な利用を通じたフィードバックを行い、問題点の抽出とその解決法について適切に対応しており、目標は達成している。

利用者参加型の新たな自然言語処理プラットフォームとして、新たな研究分野のアプローチに期待するが、モジュールの課題についてさらに整理するとともに、辞書の整備を目的とした公開利用の際には、利用者にフィードバックさせるインセンティブの仕掛けを検討することも必要である。

(コメント)

- 具体的な利用を通じて、フィードバックを得て結果を出しており、目標は達成していると思われる。
- 30年度の経験に適切に対応し、問題点の抽出と解決法を計画している(辞書、パターンの充実)。
- 利用者参加型の新たな自然言語処理プラットフォームとして、新たな研究分野のアプローチを期待。
- 新たな課題が出てきているが、成果の一つと考えられる。
- SNSからの情報抽出によって報道よりも早く災害の状況を把握することができた一方で、避難所アセスメントシートの記載欄からの情報抽出は目標の適合率を達成できていないが、アルゴリズムの強化やチューニングにより目標を達成できる見込み。
- 自然言語処理のモジュールについて、個別対応のレベルなのか、汎用的な問題が残っているのかについてもう少し整理することで、現地点での技術レベルについての見通しが良くなる。
- 辞書の整備を目的とした公開利用の際には、利用者にフィードバックさせるインセンティブの仕掛けを検討することが必要。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

計画通り進行し、また、進捗状況を踏まえた見直しも行われており、適切である。

(コメント)

- 適切である。
- 計画通りの進行であり、問題は見当たらない。
- 進捗状況を踏まえて、使途の見直しが行われている。
- 実際の現場での実証実験等も積極的に行っている点は評価できる。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

進捗状況を踏まえた計画の見直しが行われており、最終年度でのアウトプットに向けて、適切な計画である。

引き続き、プラットフォームの評価について各地での実証評価を進めるとともに、技術的に可能なこと、困難なことを整理し、メリハリを付けた対応を行うことが効果的である。

(コメント)

- 進捗状況を踏まえて計画の見直しが行われている。
- 最終年度でのアウトプットに向けた完成度のプラットフォームを作る適切な計画である。
- 新たな実証評価が十分に実施されている。
- リコール、プレジジョンの数値と、実際の各分野での利用価値との間に差があると思われる。プラットフォームの評価では、引き続き、各地における実証評価を進めてほしい。
- ユーザからの意見を吸い上げることも重要だが、技術的に可能なこと、困難なことを整理し、メリハリを付けた対応をすると効果的になるのではないかと。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

本年度と同様、実証実験等を通じた開発のための予算計画となっており、適切である。

(コメント)

- 適切な予算計画と考える。
- 適切である。
- 進捗状況を踏まえて見直しが行われている。
- 本年度と同様に実証実験等を通じた開発のための予算となっている。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

現場のニーズを持った人と連携し、実証実験等を通じた意見交換を行っている点は評価できる。

引き続き、各自治体への働きかけや利用促進のほか、広報や講習も進めてもらいたい。また、実証実験に参加していない比較的関心度の低い自治体にも拡大していくためには、導入インセンティブについても検討が必要である。

(コメント)

- 現場のニーズを持った人と連携し、実証実験等を通じた意見交換を行っている点は評価できる。
- 各自治体への働きかけ、利用促進に関しては、引き続き進めてもらいたい。
- 社会への普及に向けた分野の充実がボトルネックになる可能性があり、広報と講習を進められたい。
- 実証実験に参加していない比較的関心度の低い自治体にも拡大していくためには、導入インセンティブを検討する必要がある。